

令和6年度 第2回 浅口市総合教育会議議事録

1. 招集日時 令和6年10月16日（水）
2. 場 所 中央公民館 2階 大講義室
3. 開 会 午前11時00分
4. 閉 会 午前11時55分
5. 出 席 者
市長 栗山康彦 教育長 中野留美
教育委員 高戸 崇 教育委員 藤澤弘幸
教育委員 佐藤賢次 教育委員 河野由美子
6. 説明のために出席した者の氏名
教育次長 難波勝敏 教育総務課長 大島栄太郎
学校教育課長 池田一成 ひとづくり推進課長 佐藤秀志
学校教育課長補佐 若山貴信 教育総務課 平井恵美子(事務局)
7. 議事の大要

教育次長 令和6年第2回浅口市総合教育会議の開会を宣する。
次第2 市長挨拶について

市 長 本日はお忙しいところ第2回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。総合教育会議は、我々市長部局と教育委員会部局がお互い意見を出し合い、より良い教育を考えていく会である。協議題は、休日部活動の地域移行についてと寄島学園の特色についてを予定している。寄島学園の特色作りは、急いでしなければならないこと、急ぎすぎてもいけないが、結論を出さないといけない。皆さんの思いをよく聞いてやっていかないといけないことがある。忌憚のない意見をいただければと思う。

教育次長 次第3 協議題について
浅口市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、市長に議事進行を求める。

市 長 浅口市総合教育会議運営要綱に基づき、議事進行を行う。
協議題1 休日部活動の地域移行について
事務局に説明を求める。

学校教育課長補佐 資料により説明する。
浅口市の目指す部活動地域移行について、少子化の中で子どもたちがスポーツ文化活動に継続して親しむことができる機会を確保し、スポーツ文化活動を通して子どもたちの健全な育成を地域と共に進めていくことを念頭に進めている。
現在の学校部活動は、平日休日共に学校管理下で実施している。人数が少なくなっていることもあり、学校部活動の地域連携や合

同部活動、部活動指導員を入れながら進めている。

今後、休日の部活動は学校管理課ではなく、学校と連携して行う地域クラブ活動と位置づけ、法律上は社会教育、スポーツ文化芸術となる。指導者は、教員の兼職兼業もあるかもしれないが地域の指導者が原則である。費用等が部活動ではないので発生する。一昨年度から地域移行に向け、推進委員会を開催しているが、なかなか進まない状況がある。課題を挙げればきりがないが、まずは地域移行に向けて進めてみている状況である。国の実証事業を受け、部活動コーディネーターを入れ、これから活動を進めていくところである。10月の頭に第2回部活動地域移行検討委員会を実施した。国が示したロードマップについてだが、令和5年度から令和7年度は改革推進期間、令和8年度から地域クラブ活動の充実としている。国としては令和7年度に地域以降できているので令和8年度からは充実させていくとしている。浅口市は令和6年度から実証的にできるところから実施していく、令和7年度はその回数を増やしたり競技を広げたりしていきたい。令和8年度は国が示すように、休日は地域クラブとして活動することを目標としてやっていきたいと思っている。ただし、指導者が確保できない場合は休日に部活動をしないということで考えている。大会参加は競技ごとにルールがあるのでクラブが参加できるのか、部活動という形になるのか、競技ごとに考えていく必要がある状況である。部活動は学校が行うが、地域クラブは運営する組織や団体も検討していかなければならない。最初は市が運営主体として、各競技と連携をとりながら保護者への連絡、学校との連携をしながら進めていき、ゆくゆくは外部への委託を進めたいと考えている。

11月からの取り組みは、市内中学生の有志を対象に可能な活動から進めていく。活動では1人1回100円を徴収する。検討しているのはバレーボール女子、陸上競技、ソフトテニス、美術、吹奏楽である。やってみることで課題も出てくると思うので、やりながら可能性を探っていきたいと考えている。予算が大きな課題である。現在は部活動なので、先生には部活動手当が出ている。平日は放課後は出ず、休日のみだが部活動手当がある。3時間2,700円、4時間以上3,000円で上限となっている。昨年度の実績は約600万円、これは教員への手当なので県の予算である。では、地域移行の予算を試算すると、浅口市に各競技一つ地域クラブ活動を作るとして、時給が1,600円で部活動指導員3時間月4回年間12ヶ月、1団体当たり3人で計算すると約691,200円となるので、9団体が活動すると仮定すると、約620

万円が必要である。すべて行政が払うべきなのか、受益者負担をするのかも課題であり、受益者負担をする場合を試算してみると、1団体当たり20人参加するとして、1ヶ月2,880円となる。この額は指導者謝金なので、他に保険や消耗品、運営する人を雇うとなると変わってくる。

地域部活動検討委員会での課題として、謝金約600万円、事務職員300万円、消耗品費100万から200万という予算の確保、受益者負担はどの程度とするかの検討、困窮家庭は補助等をどうするか、全ての活動で指導者の確保ができるのか。その運営する組織のあり方、他市との連携はどうなのか、スポーツ少年団への補助金との違いといったものが出てる。また、令和8年度から進めていく上では新1年生には関係してくるので、いつからスタートするかなど具体的に説明していかなければいけない。今年は国の実証事業を受けており、休日地域クラブ活動をスタートできるが、来年度以降は実証事業を含めどうなるか。そもそも指導者はボランティアではできないのかということを言われている。様々な課題・意見があり、このような実情であるので現在の状況をお伝えした。意見をいただきたい。

市長 課題が様々あるという説明であったが、ただいまの説明に対して何か質問意見等あるか。

藤澤委員 1回100円というのは、子どもたちから毎回集めるのか。

校教育課長補佐 100円を集めることを考えている。

藤澤委員 1ヶ月で集めるのか、毎回集めるのか。

校教育課長補佐 月の回数もあるかと思うが、出欠もあるので1回100円で集めることを考えている。

高戸委員 この100円についての根拠は何ですか。

校教育課長補佐 これが実証事業であるので無料では実施できないので、保険代だけ集めることも検討したが、保険料が800円ということで、高いという意見もあったので、根拠というのは曖昧ではあるが1回100円と設定したところである。

高戸委員 800円は高いと言われたが、これから先、謝金等を試算すると1人当たりが2,880円の受益者負担にプラス保険他が入るとなるともっと負担が増えていく。それをイメージした上で、今は100円でとごまかすようなことをせずに800円は保険代とはつきり言った方が、これから先を考えたときに保護者も納得するのではないか。

校教育課長補佐 まずはスタートをする上でハードルを下げて参加できるような形で設定したのが100円である。実証事業を受けている他の市町でも最初の入口のところはかなり額を下げている。いざ動き出し

たら受益者負担があるということはあるが、まずは実際やってみる中でのハードルを下げて試しにやって見るという中で、100円と設定した。

高戸委員 11月から3月までとして、2回ずつ実施した場合だと1,000円になる。この費用は何に使う予定か。

学校教育課長補佐 実証事業の運営費として収入に入れる予定である。

高戸委員 バレーボール、吹奏楽、美術も同じ運営費なのか。

学校教育課長補佐 そうではない。

高戸委員 そういう曖昧なことではよくないのではないか。必要なお金であれば、11月からこれだけのことに対して必要なご協力くださいと言った方がわかりやすいと思う。保護者も納得するのではないか。1回100円で何に使われるのか、施設利用料なのだろうか、何に使うのだろうかと思う。ハードルを下げるという意味では非常に分かやすくいいことだと思うが、今後やっていく上ではどうだろうかと思う。

市長 1回100円の活動費について色々なご意見があるが、100円では運営費には足りない。今年度は国の実証事業に対する補助金が150万あり、足りない部分は市が負担する。実際には1回100円だけではなく、国からの150万円の補助金と合わせて必要な全体を考えていかないといけない。市の負担がいくらで休日地域移行した場合できるのか。全体的な予算をもう一度説明してもらえるか。

学校教育課長補佐 今年度に関しては国からの実証事業の補助金150万円で進めている。今年は夏休みに学校や部活動と協議交渉し、地域移行の活動を5団体で実施することになった。今後も活動ができる団体を増やしていくたいと思っている。今年度11月から3月まで5つの団体で指導者を付けると共に、部活動コーディネーターを任用している。来年度のことはこれから、次の当初予算に向けての計画となる。

市長 具体的に、例えば今年度は11月から150万だが、来年度は実証事業の対象となるのか。

学校教育課長補佐 今は手を挙げている状況で、分かるのは3月、4月になる。

市長 それがもらえなかつたら当然市の負担は、かなりの金額となる。それをシミュレーションしたものがあるのか。いくらかかってもやるのかと言われたら、保護者の負担は100円でいいのか。何千人も掛かるがそれでもするのかと言われれば、考えていいかないと。長続きできる制度にしないといけない。来年度の実証事業についてはどうか。

学校教育課長補佐 今のところは可能性としては高いとは言われてはいるが必ずと

は限らないことがある。

市長 今年度だけのことを考えて3月まではやりました、4月からはありませんでしたとはならない。4月からのことも考えておかなければいけない。ただ、4月からのことは今後決めることもあるし、今日決めないといけないことだけをまとめてほしい。

学校教育課長補佐 先ほどのロードマップの中で、令和8年度から地域クラブとして活動していくことを目標に掲げていることについてご意見いただきたい。

市長 今日は先ほどのような詳細な話ではなく、令和8年度に向けての今後の国が示す目標で浅口市も進めて行くことでよろしいか。

全委員 異議なし。

市長 教育長何かあるか。

教育長 今同意を頂いたのですが、2日前に県内の教育長の話し合いがあり、その中でのことを報告しておく。令和8年度から地域クラブの充実となっているが、令和8年度からの予算はまだ国の方では決まっていないとのことで文科省が今話し合いを始めたところ。この費用面についても、方向性を国が出さないといけないが、今やっている状況である。要するに地域ではこうして実証事業をしているが、方向性は決まっていない。市としてどこまで準備しておけばよいのかを考える必要があるが、何もせずに決まつたらからといってすぐにはできない。実証事業を行いながら国が示す方向性をしっかりと見ながら行っていく方法がいいのではないかと思う。市としてもお金の要求を県や国にしていく必要がある。休日の部活動がなくなったら600万は浮くので、これは地域にしっかりと出していってほしいと言わなければいけない。

市長 600万は先生の部活動手当ということだが、平日も含まれているか。

教育長 これは休日の分で平日は放課後なので手当としては出でていない。

河野委員 今後のことと関連して教えていただきたい。11月からの取り組みなので、募集をしていると思うが、今現在5競技に何人ぐらい参加される予定なのか分かっていたら教えてほしい。

学校教育課長補佐 今週、来週ぐらいから募集の予定である。

市長 課題もあり、不満もあるかと思う。

高戸委員 不満より不安が大きい。保護者にこのやり方で伝わるのか、子どもを行かせてみようという気になるのかと思う。土曜日は通常の部活動はないということか。

学校教育課長補佐 令和6年度はこの活動は日曜日に行うので、土曜や平日は今まで通り部活動を行う。美術は元々土曜日に部活動を行っていなかつたので、土曜日に実施する。

市長 やってみて反省しながら前に進めてみるということでよろしいか。
全委員 異議なし。

市長 協議題2 寄島学園の特色について
事務局に説明を求める。
学校教育課長 資料により説明する。

寄島学園を子どもにとっても、地域にとっても、浅口市にとっても魅力のある学校にしていきたいという思いで今準備を進めている。特色を3つ挙げている。1つ目、「学校と地域が目標を共有し、学校と地域がパートナーとして子どもを育てます。」現在も力を合わせているが、義務教育学校になり更に力を入れたい。その一つの形として寄島アクティブラブというものを検討しているところである。放課後の時間を使い、地域人材や大学・高校との連携によって子どもたちが興味関心あることを選び楽しく、活動できるようなグラフを考えている。そのクラブの実現に向けて、現在協議している内容は、クラブの運営主体は寄島学園学校運営協議会と地域学校協働本部が行う。活動日は月1回水曜日午後に行う。ここは議論があるかと思っている。特色と考えたときに、月に1回で良いのか。対象は寄島学園の児童生徒および地域住民、放課後なので、地域の方、大人の方も参加していただくことで、子どもと一緒にになって楽しく過ごせる時間が実現できればと思う。クラブの内容はいろんなものを検討している。地域の方からも意見をとるし、スポーツ・文化活動それから学習・英語もいいという意見をいただいている。

2つ目は異学年交流、1年生から9年生までが学校で過ごすので、いろいろな仕掛けによってこれまでできなかったことができないかと思っている。

3つ目、寄島の魅力を発見・発信、寄島といえば海という資源がある。地域人材、大学や高校との連携して、郷土のよさや魅力を再確認し、ICT等で発信していくようなことをしていきたい。寄島学という学習をしているがそれがこの活動に入ってくる。こういうことを特色としてやっていきたいと思っている。以前特色の一つの提案として、留学についてご意見をいただいている。魅力的なだなと思っている。今日はここに書いてあることについて、意見がいただきたい。

市長 意見がありましたら、率直にお聞かせいただきたい。
佐藤委員 環境的には、寄島で海に関することについて魅力を発見・発信していくというのは大事だろうと思う。提案された魅力を発見・発信というのは寄島学とちょっと重複する部分があるがその辺は主体が違うから、学校主体の寄島学なのか、この学校運営協議会や

協働本部が主体のアクティブラブなのか調整をうまくやっていく必要があるというのが一点、もう一点はこの魅力の発信の場に専門家と大学と連携しながらとあるが、大学、あるいは高等学校も含めて連携をとる、具体的に今考えていること、あるいは今後連携していこうと思っているところがあれば聞きたい。

池田課長 大学との連携は、力を入れていきたいと思っているところで、具体的にはこれからにはなるが、現段階で考えているのは岡山理科大学に一度お邪魔をして、話をさせてもらった。海・自然というところで岡山理科大学の強みがあるので、提携して地域支援いたら面白い教育ができないかと考えている。もう一つが、環太平洋大学で以前から不登校関係連携がしたいということで、何回か協議をしている。大簡塾についてであるとか、学校の不登校問題について、一緒にやっていきたいとお話いただいている。従来から岡山大学の先生とは繋がりがあり、学校運営協議会のバイザーにも入っていただいているので岡山大学の先生方や、学生と連携をしながら、学校にとっても、大学にとってもよりよい活動ができるらしいなと思う。おかやま山陽高校とも一緒にスポーツそれからお菓子とかでいい連携ができればこれまでにない面白い教育ができないかと考えている。

市 長 つけ加えると、鴨方高校から具体的なことはまだ話はないが積極的に関係を持っていきたいということで校長先生と話をしている。福山大学は包括協定を結んでいこうということで具体的にはまだ決まっていないが、そういった大学や高校とのコラボはこれから積極的に進めていける環境になりつつあるのでそこら辺も気にかけていただけたらと思う。

河野委員 寄島の魅力を発見・発信について、これも地域と共にということだと思う。上の方にアクティブラブというのがまず出てきますが、可能であれば、その魅力を発見・発信という学校の教育課程の方も、地域と共にというところをしっかりとアピールをしていただく方がさらにいいのではないかというところが1点。それから関連してアクティブラブは子ども主体児童生徒主体ということなので、いろいろな内容の案が出てきているが、子どもたちがやりたいというものを中心に決めていかれるべきかと実施の面では思った。もう1点、異学年交流で兄弟学年を編成で、1・6・9年生というふうになっているが、小学校中学校が一緒になるということで、小学校だけのときであれば、6年生が本当に成長するのが異学年交流で1年生のお世話をしたり学校全体のことを運営していく中で、小学校6年生がすごく成長していく。これが中学生と一緒にすることによって、埋もれないようにしていっていた

だきたいなと思う。

市長 貴重なご意見が出たが、何かそれに対して事務局あるか。
学校教育課長 どういうふうに私が紹介してるかということでご指摘いただいたと思う。また6年生の活躍を消さないというのは、いくつか視察行ったが、多くの義務教育学校で、そこはすごく懸念事項としてあった。そうならないような工夫はしていきたいし、児童会活動とか生徒会活動、組織の編成も関係してくるのかと思う。きちんと役割を与えて育てるっていうことは思っています。

市長 言葉だけじゃなしに具体的なこともしっかりと決めていくようにした方がいいのではないかと思っている。

藤澤委員 先ほど言われたように教育課程とかそういったところの特色をもう少し出してもらいたい。外から寄島に来てもらわないといけないのではないかと考えて留学という話が出てきたと思う。話していく中で留学は難しいとなったときに逆に寄島に来てもらうために寄島で留学と同じような状況を作るよう、例えば夏休みはALTの先生方や他の先生方も時間があったりすると思うのでそこで寄島の夏休みを使って寄島で留学体験そういったものができるような環境作りを進めていくことで少しでもやっぱり外から来てもらえるようにしてほしい。先ほどの特色はすごくいいとは思うがインパクトはないかと思う。外へ出せるものをアピールしていきたい。

市長 具体的なことが必要で、今貴重な意見をいただいた。この前皆さん方の留学という話が出て、逆留学の環境を作っていく。これ非常に面白い案だと思う。これも一生懸命勉強してみたらどうか、研究してみたらどうかと思う、どうでしょうか。

学校教育課長 夏休みを、効果的に活用し何とか形でできないか研究する。期間であるとか、内容について研究します。

市長 就労規則等の確認もあろうし、いろいろ研究してまた皆さんにお示ししたらどうかと思う。

高戸委員 この特色という言葉を聞くと、やはりどうしてもアピールというのが非常に頭に浮かぶ。その中でここに書いてある中に寄島水族館と書いてある。非常にこれを私は魅力に感じる。やはり学校に水族館があると言ったらこれは非常にインパクトもあるし、非常にいいところじゃないかなと、大きな水族館をイメージするのは無理かもしれません、小さい何か水槽から作っていって、水族館で子どもたちが魚店をするとかといったところも含めていけば、この特色という言葉に非常にマッチしているのではないかなという気がした。こういう特色というものでアピールできればいいのではないか。

市長 来てもえるような特色づくり、一生懸命皆さんと力を合わせて具体的なものを作っていく。

教育長 外から来てもらうことこそ、委員の皆さんの中に最初からあったと思うので夏休みを使っての留学体験それから大学のことであり、特色の出し方だが、市長がよく言われるが、楽しい浅口市に、挑戦する浅口市というキーワード、これは教育の部分でも十分できることなのでそのキーワードを元にしっかり舞台を作っていくたいと思っている。

佐藤委員 英語教育で特色をだすということで、修学旅行を海外に行くとか語学留学のことも検討はしていって欲しい。

市長 先ほどの寄島での留学と合わせて研究して欲しい。
今、寄島では着々とファジアーノのグラウンドができている。完成がいつかというのはまだ報告は受けていないが、割と早くできるんじゃないかなというようなことも聞いている。そういった寄島ならではというのは、他には昼間人工芝ができるようなどころは他にない。寄島ならではのものなので、未知数になるが、特色を作りを出せれば、よそからも来ていただけるようなインパクトも作れるのではないかとファジアーノとも話をしてみていただきたいと思う。

その他について、事務局から何かあるか。

教育次長 特になし。

市長 令和6年度第2回浅口市総合教育会議の閉会を宣する。